

二月五日

十時フジタ来室。十一時社会人特別選考その他。十三時教室会議。十五時過打合わせ幾つか。十八時半土木学科、現社会工学科との懇親会、高田馬場のイタ飯屋で。土木の先生との会合。私はそれでも関心があつて出席したのだが、つまらぬ会であつた。こんな会は二度とやる必要はない。旧土木、二名大中に遅刻。土木からの申し入れの会であることを忘れたのであろうか。やはり感性の土台がまるで別世界だな。そんな印象は益々強まった。早稲田大学理工学部再編に対する個人の考えは本日でもゆるぎないモノに確定した。

二月六日

七時起床。レヴィ・ストロースの悲しき熱帯読み続けているが、やはりこの哲学者の思考の基調低音は抑制されたペシミズム（ニヒリズムとは少し異なる）なのを感じてしまう。大きな意味でそれは仕方のない事なのだが（知識人の宿命とも言つべき事なのだが）、やはりそれを簡単には乗り越える事はできない。九時前研究室。上海の登さん来室。筆談を交えて今年から将来の計画について話し合う。人それぞれにそれぞれの場所で苦勞を重ねているのだろう事を前提に附合つてゆかねばならない。登さんの一見楽天的で屈託のない身振り、生き方の裏に、深い孤独と、しんさんをなめつくすような悲哀を感じた。十時山梨の方来室。住宅づく

りの相談。十二時半調布馬場さん来室住宅の相談。十四時修了。十五時過上福岡千代田さんの現場へ。十六時過、東上線で東京に戻る。五反田のトモ・コーポレーションへ向かう。今、十七時頃、東上線車中。落日が西の空に見事な光を散乱させている。十八時五反田駅前で史上最悪のソバを喰べ、TOC内トモ・コーポレーションへ。一時間早く着いたが、打合わせ始める。社長、専務と三人で。大方の重要事項全て決める。十九時半修了。社長、専務とビルの地下で夕食、仕事の話しを離れ談論風発。二十一時過お開き、二十二時山手線新宿。京王線へ。二十三時世田谷村に戻る。今日も夜は原稿書けない。

二月七日

七時半起床。今日は中里氏と取材の日だな。少しゆつくり出来るが、いくつかのメを過ぎた原稿の事がズッシリと頭に重くよどみ始めている。MRIでは写し出されぬストレスだ。うさぎのツトムがすっかりなついて、足許にじゃれつく。トイレまでついてくるのはやり過ぎだぜ。ツトムのおかげで世田谷村の茶の間に置いてある植物は皆、下半分は丸坊主になつてしまった。しかし、一様の高さ、つまりツトムの背が届く範囲内が丸坊主なので、非常に建築的が良い。TVや家具もかじりまくつてくれれば良いのに。しかし、気が付いてみれば最近毎日スケジュールが一杯でセコセコ動いてばかりの日々であつた。それなりに充実している様な気分になりやすいのだが、用心しないと何も残っていない事になりかねない。残つたのはこのメモだけなんて悲惨な事になりかねない。しかし建築の設計という仕事は雑用の固まりだな。このゴミが集積して一個の造形物に立ち上ると理解しても良い位だ。三〇代の空白期間を今になって埋めている実感がある。三〇代は

一人で勝手な事をしていた。あきれ返る程に。それが私の中心を作っているのも確かだが、もう少し雑用もこなしていれば良かったと思う。そうすれば五〇代の終りにこんな日々を送らなくて済んだかも知れない。マ、しかし全て仕方のない事だ。巡り合わせとあきらめるしかないだろう。時間というのは悲哀に満ち満ちたものなのだ。

二時間程世田谷村の朝をくつろぐ。梅の香が室内にただよってきて、心和む。今日も一日なんとかしのいでゆこう。